

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375601370		
法人名	有現会社ライフサポート・タカラ		
事業所名	グループホーム七宝 1階		
所在地	愛知県海部郡七宝町大字下田字江西66番地2		
自己評価作成日	H21年10月31日	評価結果市町村受理日	平成22年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html">http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町1丁目24番地 S101号室
訪問調査日	平成21年12月4日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺は田園風景に囲まれており、犬の散歩や農作業をしている地域の方など顔見知りとなり、気軽に声を掛けてくださいます。自然に恵まれた環境で春には田んぼの畦道にはタンポポの花が咲き、入居者さんと土筆取りに出かけ、美味しく食べました。今頃は豊かに実った稲穂が一面に黄金色となり心豊かになります。一年の変化が緩やかに流れ四季を感じ取ることができます。日常生活を送る上で自然とが一体化しており、日々のサービスケアにも個別ケアを重視とし入居者さんには穏やかな日々を過ごしていただいております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの特徴として、利用者が個々の特技を活かして役割を持って生活していることが分る。ホーム内には、利用者の作品がたくさん飾られ、その一つひとつの部分毎に利用者が関わり、つなぎ合わせて一つの作品になっている。職員は担当制になっており、毎年利用者の誕生日には、思考を凝らし心のもった手作りのプレゼントを贈っている。そのためか、利用者職員は信頼関係が出来ており、接する時の笑顔が違う。職員は、利用者個々に合わせたケアを心がけ、個別に合わせた対応について、心配りと思いやりを持ち、利用者を尊重しながらのケアの実践を提供している。温かで利用者も笑顔があふれ、穏やかに生活できている家庭的なホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム開設より、理念をかかげ明るく、楽しく、のんびり施設ではない家庭的に近い環境づくりに努めている	職員がいつも目につく所に理念を掲示している。職員は認知症を理解してケアを提供できるように、独自のチェック表を使い、6か月に1度、確認しながら実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周辺を散歩コースとして通る人や農作業をしている地域の方と挨拶や話をしたりするようにしている。ホームに入居されているご近所お友達などの訪問も見られる。	町内会には入っていないが「字費」という自治会費は払っている。田園の中にあることから、農作業中の地域の方との挨拶や会話をしている。また、秋祭りや子ども会の神輿・ゴミゼロ運動に参加し、地域との交流が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議メンバーの自治会役員の協力により、地域へのグループホームの存在と認知症の理解を少しずつアピールしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を重ねることでグループホームを理解していただくことが貴重な意見や要望があれば極力取り入れている。	2か月に1度、自治会会長・町職員・家族等の参加で開催している。会議より、付近の不要の車の駐車禁止の立て札を設置し改善につなげたり、住職が現在隔月でホームを訪問し、法話を行ってくだたり、会議を活かした取り組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が主に介護保険証の更新手続き等の際、入居者さんと一緒に役場を訪問しながら持つように心がけている。また、町職員からの入居者さんの問い合わせに関しても情報提供をしている	介護保険の更新や入居に関しての問い合わせなど、連絡は密にしている。何か問題が起きた時でも、窓口の担当者とは気軽に相談できる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	休憩室に具体的内容の資料が貼ってあり、いつも意識し理解するようにしている	身体拘束について、具体的な項目を職員に伝えるとともに掲示している。不随運動があり危険な利用者にも拘束するのではなく、職員・医師等で話し合いリクライニングの椅子にするなど、工夫しながらのケアに心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の講習会に参加し理解を深め、ホーム指針を掲げ虐待行為がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあるが、法人宝会老健施設七宝園の相談員が担当しており、現状においては対象の入居者もない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コミュニケーションを密にとり、話しやすい環境作りに努めている できる限り入居者さんの立場となり、ご家族とも連絡を取り必要に応じカンファレンスする		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、毎月のおたよりなどで意見などを話やすい状況となっており、いつもご家族とは密な連絡をとっている。またホームに意見箱を設置している	毎月ホーム便りと一緒に、担当者からの日々の記録・医師の記録を送付し、要望や意見を聴く仕組みがある。また、日常的なことで何か要望がある時には、その都度聴き、対応している。食事に関しても、レンジを購入し、個別で自由に使えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に情報を共有し、職員からの意見や提案については内容により定期カンファレンスで検討している	年2回、ホームの独自の勉強会を開催し、上・下半期で業務改善策を検討し、その場で職員は業務についての提案が出来る。また、毎月両ユニット合同でミーティングが行われ、日常の事を話し合う場を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の声かけ、研修への参加や、個人の年間目標を立て実行するように努力している。目標管理シートの達成度を面接において確認をし、個々のスタッフレベル向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護実践研修の参加を随時申し込みをしている 他の講習会、研修への参加をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人による勉強会、母体が同じグループホームとの意見交換やG・H協会による地区意見交換会に出席している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活の中で日々観察をし、話し合いをしてその都度対応に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関連施設相談員と母体病院と連携をとり、その都度対応に努めて情報の共有する		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応したスタッフが速やかに判断して、内容によっては母体病院、関連施設と連携をとり対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で何ができ何ができないのかいつも新たな発見をすることでさりげない支援に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への家族参加の声かけ、ケアプラン実施にあたり要望を聞いたり、毎月生活状態等のお便りを郵送している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に任せており直接の支援はしてないが、面会者があれば面会等して頂いている	趣味を教えていた利用者には、以前の生徒が訪問したり、古い友人が訪問する時には、家族の了承を得て、その友人と喫茶店へ出かけるなど、馴染みの関係の支援を行っている。希望にて、馴染みの場でもある甚目寺観音への外出もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、外出、調理、おやつ実習、行事等の参加の声かけをし、生活の中でも、交流の場を提供するよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族よりお世話になったことのお礼など、立ち寄ってくださる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族より聞いたり、生活の中で、本人とコミュニケーションを図りながら把握に努めている	アセスメントから利用者本人や家族の意向をくみとり、カンファレンスで話し合い、個別に対応している。毎日利用者と一緒に食事を摂る時や会話からも、希望や要望を知る事ができ、できるだけ思いや希望をできるように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談員からの情報提供や、家族からの情報収集をし、生活の中でも本人より聞き把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りで把握に努めており、生活の中で入居者さんが出来ることはやって頂くように、いつも心身状態の把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族へは要望など聞くが、「特になし」と言われることが多い。毎月1, 2日曜日に介護計画についてのモニタリングを実施しており、見直し問題点などカンファレンスを開き意見交換や介護計画の検討を実施している	日々の中で家族から要望を聴き取り、プランを毎月チェック・モニタリングし、4項目の目標達成度を3ヶ月で評価し会議で話し合い、計画書を作成し、家族に説明している。変化がある時には、その都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランチェック表を毎日つけ、毎月の評価を記入する。ケアプランの期間が終了する前に見直し、状態が変化した際は、終了する前でも検討見直しを行う		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、ご家族に連絡をとり可能な範囲内での対応に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者のかかえている問題点や家族背景によって対応が異なり、現状ではそこまで必要性が生じてない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週火曜日と木曜日に、往診と訪問看護があり入居者さんの状態を把握し、その都度の報告により、密に医療連携を取っている	母体が医療法人であり、入居後は嘱託医がかかりつけ医になっており、週1回の往診の他、急な体調変化時にも、すぐに対応できる体制になっている。他科の受診が必要な時にも、嘱託医が診察して情報を提供している。また、訪問看護も週1回訪問し、連携がある	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の状況把握をし週1回の往診時に主治医へ報告また訪問看護師よりアドバイスを受ける		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院、他病院であっても関連施設相談員が入院先のワーカーとの連携し調整に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	母体病院と連携をとり、情報共有しつつホームが対応しうる最大ケアについて家族に説明しているが、基本的にはターミナルケアはしない。ホーム独自の退居基準を定めている。	基本的に入居時に重度化した場合の対応を家族に説明し、理解を得るようにしている。ホームでは、取り組みのためのマニュアルを整備し、訪問看護や病院も利用しながら、ホームとしてできない段階まで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、全職員が対応できるようになっている。 勉強会実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、入居者さんも参加しての防火訓練を実施している。関連施設の協力は得られる	事前に研修して年2回訓練を行っている。1回は消防署の協力を得、1回は母体と行っている。職員の自宅が近く、元自治会長の協力も得ることができる。母体施設に備蓄がある為、ホームとしては持っていない。	ホームの周りは田園であるため、職員や地域住民の協力も得られる環境にあるが、今後は夜間想定での訓練についても期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で気がついた時は、注意の声かけをするなど対応に配慮している	トイレや入室時のノックや耳の遠い利用者への声かけなど、言葉遣いも親しき中にも礼儀ありを理念において接している。利用者は個々で座る場所や安らげる場所などを持っており、職員は利用者の意思を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも本人が決める状況に努め、個々に合わせた支援をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り日常生活リズムを崩さないように、せかさな、ゆったりとした態度で接するように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時等、本人に衣類を選択してもらい、整髪等支援している 週1回、美容師に来て頂いている。予約(5名まで)カット、毛染め、顔剃りがある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた役割をもち、配膳や食事の後片づけをしていただいている。	食事は配食サービスを頼んでいるが、利用者が配膳盛り付け、テーブル拭き等の役割を果たしている。月2~3回利用者の希望を聞いて調理実習を行っている。毎月のおやつはできる限り手作りになっている。	配食サービスであることで、冷めている。温め用レンジはあるが、個人で温めるようになっているので、そのまま食べる人もいる。熱い状態で食べられるように全体で温める工夫や、出た副食がパサツキ、ムせている利用者には、ひと工夫する配慮を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理師によるメニューとなっている。摂取状態により食事形状を食べやすく危険のないようにしている。水分補給は極力促し、いつでも飲むことができるようにマイペットボトルを使用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前にはイソジン入りのうがい手洗いをしている。毎食後の口腔ケアは入居者のレベルにより声かけ、介助をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意がない入居者の個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。夜間は入居者の身体的な負担もありポータブルトイレを使用している	便秘で悩んでいた利用者も、入居後は個別の健康管理チェック表で水分やパターンを把握し、個々に声をかけトイレで排便し改善できている。また、職員は利用者のパターンを把握することで、夜間もオムツ等を使用せずトイレでの排泄になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理をするうえで下剤調整や極力水分補給を促している。運動としてラジオ体操、歩行訓練、ストレッチ体操を日課に取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当施設では入浴日が決まっており(週3回月、木、土)できる限り、ゆっくり入浴していただけるように心がけている。	1階・2階で入浴日を交互に設け、一日おきに入浴を楽しんでいるが、希望があれば毎日でも可能である。また、時間も午前・午後によりゆったり入浴ができる。入浴の順番も話し合っているため、問題も無く行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に生活ペースができており、ゆったりと居心地のよい居場所が確保されている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に状態観察に努めて主治医との密な連携を取り対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、裁縫、貼り絵等の作品づくりなど、個々に合わせたケアに努めて満足されている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月に2回のユニットごとの外出と、週に1回以上の個別外出を実施している。入居者の希望外出先についてはご家族の協力もある	個別の外出支援が週1回以上ある。そのほか、月2回はユニットごとに外出し、喫茶店に出かけたり、年4回は遠足として、初詣・花見・観劇会・公共施設見学等に出向いている。つい最近、西区の(栄生駅近く)産業会館見学に行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にはお金は所持をしていないが、入居者さんにお小遣い帳を見ていただき金額の確認をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状として手紙は扱っていないが要望があれば対応は可能である。電話についてはかけることができる。電話使用表がある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の感じられる飾りものやホームで咲いた花を生け花にするなど自然な雰囲気の中での生活感がある	窓が大きく明るい共有空間には、利用者の手作りの作品が飾られている。その作品も季節感にあふれ、利用者の特技を活かし、個々の役割や必要性が出ており、生きていく喜びに繋がっている。その中で利用者は、自然に寛げる場所を見つけ、思い思いに過している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者で気の合う人と関わりが持つことが出来る環境づくりに努めている。テーブル席など配慮する		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの生活歴が長い入居者はご自分の好みで自作品、写真、家族からの送り物等が居室に飾られてある	同じ空間で同じ家具のはずが、利用者の好みの物を置いたり、家具やベットの位置を変えていることから、全然違う部屋になっており、利用者や家族・職員の個性や思いやりが伺える。家に帰っても、すぐホームに帰りたくなる利用者が多い程、居心地が良いようで、自分の家という意識が強い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの分からない人には「トイレ表示」居室が分かるように「名前の表示」目が見えない人には移動動線の安全を確保する方法など個々の状態に応じた対応につとめている		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム七宝

## 目標達成計画

作成日: 平成 22年 1月 14日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	食事の配慮、工夫をし、誤嚥防止に努める。	むせ込みを減少し、安全な食事摂取ができる。	入居者さんの状態を安易に受け止めず、食事の形状によってはその場にて工夫をする。	随時
2	35	夜間での災害対策についての取り組み。	いつ、どんな時でも、災害非常時に対応ができる。	夜間を想定した上での訓練を実施する(夜勤体制)	4月に実施
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月